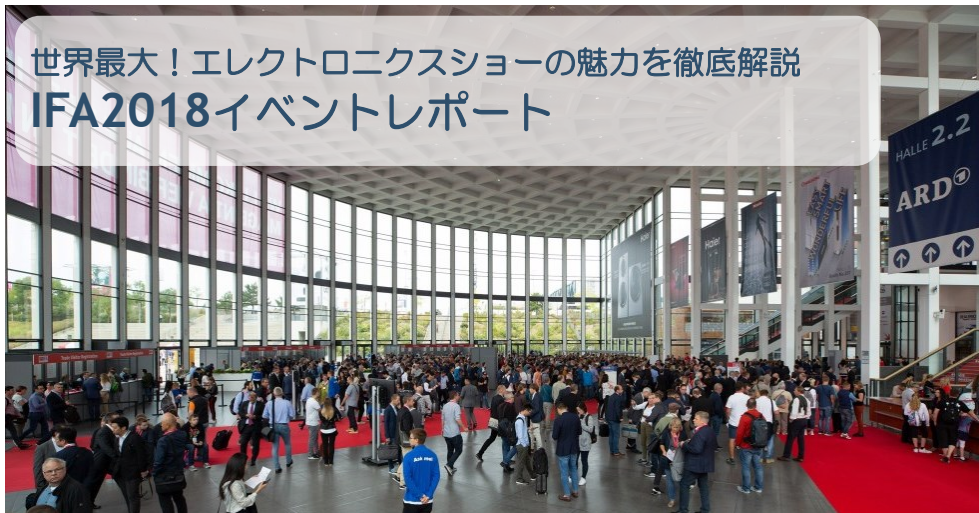


世界最大！エレクトロニクスショーの魅力を徹底解説 IFA2018イベントレポート



IFA2018 2018年8月31日-9月5日

毎年ドイツの首都・ベルリンで開催される「IFA」はエレクトロニクスに関連する最新の技術と製品、そしてビジネスチャンスに出会える世界最大のグローバルイベントだ。ジャーナリスト・山本 敦が2018年も活気に満ちあふれていたIFAの見所を振り返る。

IFA2019

2019年 9月6日-9月11日

ifa-berlin.com

コネクテッド家電の最先端がIFA2018に集結した

IFAは世界最大の規模を誇るエレクトロニクスショーだ。オーディオ・ビジュアルからホームアプライアンス、IT・モバイルにデジタルイメージングまでエレクトロニクスに関わる全分野の最先端が一瞥できるイベントは洋の東西を問わずIFAのほかにはない。

そのIFAは2018年、世界最大の「コネクテッド家電」のイベントとして、また一段と成長を遂げていた。いまあらゆるカテゴリのエレクトロニクス製品がインターネットやAI（人工知能）につなり、人々の生活を大きく変えようとしている。躍動感あふれるエレクトロニクスの現在地がIFAであると言い換えることもできる。

2018年はIFAにホームアプライアンス（白物家電）のカテゴリが加わってから10年目のアニバーサリーだった。ヨーロッパで人気の家電ブランドは各社とも既にインターネットに接続して多彩なサービスを提供するコネクテッド家電を商品として欧州で販売している。競争の最先端はもはやスマホによる操作を超えて、AIアシスタントや音声操作との連携がテーマになりつつある。IFAに多く集まる一般来場者も、コネクテッド家電を「少し未来のコンセプト」としてではなく、手を伸ばせば届く「現実の商品」として受け止めている。各社コネクテッド家電、あるいはAI関連の商品やサービスに足を止めて、熱心に説明を聞く来場者の姿が強く印象に残った。

エレクトロニクス商品の「クオリティ」に対する期待感がふたたび沸騰しつつあるようにも感じられた。便利な機能、そして高品位なデザインに画質・音質など、独自の魅力を備える商品をいち早く手に入れて、豊かな暮らしを実現したいという人々の消費意欲を刺激するプレミアムグレードの商品がIFA2018の会場の至るところに並んでいた。

IFAには年末商戦の主役を担う新商品が勢揃いする。2018年には世界各地域からIFAに足を運んだトレードビジターの割合が、初めてドイツ国内のトレードビジターの数を上回った。IFAはエレクトロニクスのグローバルトレードショーとしても年々その存在感を強くしている。

また2017年からスタートした「IFA NEXT」は、欧州のスタートアップ（ベンチャー企業）が数多く集まる活気あふれるイベントとしてジャーナリストやトレードビジターにいま最も熱い視線を向けられている。

2019年にはAIの普及が進み、5Gの商用化も始まる。つながるエレクトロニクスの最先端をキャッチしながら、ビジネスの成功をつかむための近道はIFAに足を運ぶことだ。

AI・ロボット・5G～活気にあふれるIFA2018会場の6日間



メッセ・ベルリン会場の至る所にグーグルの巨大バナーが登場。サマーガーデンに出展されたグーグルのブースはいつも長蛇の列が絶えなかった。



ソニーのプレスカンファレンスでは吉田憲一郎社長が、これから次世代高速通「5G」の技術に力を入れていく考えを発表した。



開催第2回目を迎えたIFA NEXTはホールのサイズをさらに拡大。大いに盛り上がった。



IFA NEXTにはAmazon Alexaがブースを出展。Alexaを搭載するパートナーの最新デバイスを一堂に集めて紹介した。



欧州はコネクテッド家電の最前線だった

家電にモバイル、オートモーティブが屋内・屋外の垣根を超えてクラウドサービスを介してコネクティングしていく。その向こう側でおぼろげに見え隠れしていた“豊かな暮らし”は、「いまここにあるもの」として2018年のIFA会場で存分に輝きを放っていた。

欧州家電ブランドの雄であるシーメンスは車載エンターテインメントと連携して、宅内の冷蔵庫に不足している食材を効率よく買い足しながら家路へのドライブが楽しめる家電連携アプリ「Drive2Shop」を展示。フィリップスでは脳波を測定しながら心地よい眠りを提供するヘッドギアとコーチングアプリ「Smart Sleep」など最新の睡眠ケア用デバイスに注目が集まった。

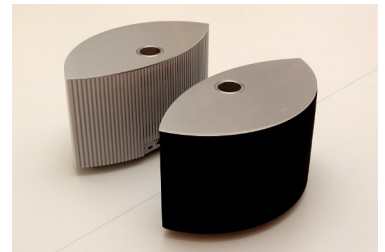
高付加価値商品に集まる熱い視線

2014年にIFAで華々しくブランドの復活を遂げた日本のテクニクスは、“プレミアムクラス”のワイヤレススピーカーシステム「SC-C50」を国内よりも早く IFA で発表。ネットワーク接続機能による利便性と高音質化技術がハイレベルに融合する製品の魅力をアピールした。

ソニーは新コンセプトの据え置き型 HiFi オーディオプレーヤー「DMP-Z1」が、音に一家言を持つドイツの Hi-Fi オーディオマニアをうならせた。4K ブラビアのフラッグシップモデルは液晶と有機 EL、それぞれの高画質テレビが来場者の目を釘付けにしていた。日本でもデザイン家電のブランドとして人気のカドーも、空気清浄機・加湿器の商品群が IFA の出展によって注目され、欧州市場へ好発進を遂げた成功者だ。



シーメンスはコネクテッドカー向けのサービス「Drive2Shop」のコンセプトを発表。冷蔵庫に不足している食材を最も効率よく買い物しながら帰宅できるルートを教えてくれる（写真左）。フィリップスの睡眠支援用スマートデバイス「Smart Sleep」（写真右）も欧州で発売される注目のアイテムだ。



ソニーのSignature Seriesに加わる高級オーディオプレーヤー「DMP-Z1」はドイツのオーディオファンを魅了した（写真左）。テクニクスの「SC-C50」（写真右）はインテリアにさりげなく馴染むデザインも特徴的なワイヤレススピーカーシステム。

2018年も日本のブランドがIFAを熱く盛り上げた

2018年も IFA に出展する日本の企業・ブランドが圧倒的に強い存在感を放っていた。ソニーは aibo を欧州市場に投入することを決め、独自の AI テクノロジーを活かしたロボティクス技術のリーディングブランドとなることを高らかに宣言した。

パナソニックはドイツ人の味覚にマッチするハードクリスピー系のパンが焼ける「Croustina（クラウスティーナ）」シリーズのホームベーカリーを発表。欧州市場のニーズをひたむきに研究してきたパナソニックの大きな成果だ。

シャープは4K を超える高精細な8K 映像をリビングで楽しめる家庭用モニターを商品化。欧州でも映像機器のプレミアムブランドとして力強い再スタートを切った。ヤマハ、オーディオテクニカはクリエイターの感性までリスナーへダイレクトに伝えるオーディオ製品の数々を IFA で発表した。カシオはグーグルの Wear OS をプラットフォームとする最新のスマートウォッチを IFA で発表。頭一つ飛び出る完成度の高い商品が注目されていた。



“aibo” がいいよいよドイツでも発売される（写真左）。ソニーのAIテクノロジーが生み出したオリジナリティに富んだ製品だ。パナソニックからはカリッと焼けるホームベーカリー“Croustina”シリーズがデビューする（写真右）。



IFAの常連となったオーディオテクニカが発売する左右独立型の完全ワイヤレスイヤホン「ATH-CKR7TW」（写真左）。カシオ計算機もグーグル Wear OSを搭載するスマートウォッチ「Pro Trek Smart WSD-F30」を発表した（写真右）。

IFA2018で注目された各分野のトピックスを振り返る

8K/4K

欧州でも放送局や映画スタジオなど映像制作の現場に次々と4K対応の機材が導入されはじめているという。そして業界の視線はいま4Kを超える8K高画質にも注がれている。

シャープは欧州でも既に8Kモニターを発売している。IFAでは第2世代のAQUOS 8Kの実機を展示して会場を沸かせた。日本には18年末4K8K衛星放送スタートに合わせて第2世代の8Kテレビを一気に3サイズ投入する。海外勢もLGエレクトロニクスが88型の8K有機ELディスプレイを展示。サムスンも8K対応の液晶テレビ「QLED」シリーズの高級機を欧州で発売する予定だ。



シャープの8Kテレビは早くも第2世代の商品が発売される。欧州では80型のチューナーを搭載しない8Kモニターが登場予定（写真左）。サムスンも独自の画質技術を活かす液晶「QLED」シリーズの8Kテレビ（写真右）を投入する。



Bluetoothオーディオは欧州の音楽ファンにとっても最大の関心事。中でも左右独立型の完全ワイヤレスイヤホンはソニー、ゼンハイザーに北欧の新鋭ブランドまで、今年は実に様々なメーカーから新製品がIFAで発表された。

オーディオ

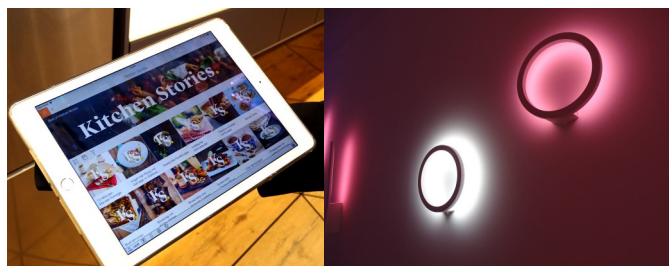
IFAはホームオーディオの祭典としても地元のファンに愛されている。毎年ゼンハイザーやAKGなど欧州を代表するブランドや、日本からもソニー、オーディオテクニカにヤマハなど老舗がIFAで新製品を発表する。いま注目のBluetoothオーディオは欧州の人気ブランドも力を入れており、期待度の高いモデルが出そう。

左右独立型の“完全ワイヤレスイヤホン”は、クリスマス商戦に向けて各社の競争が特にヒートアップしていた。ゼンハイザーにJBL、オーディオテクニカやソニーをはじめとする日本勢、そして北欧のスタイリッシュなブランドの注目製品がIFAの会場に集まった。

ホームアプライアンス

ホームアプライアンスはAIアシスタントにも連携するインターネット接続の機能を搭載したコネクテッド家電が大人気。家電どうしが連携するサービスや、スマート家電の魅力を引き立てるアプリのサービスが2018年にまた一段と充実した印象があった。

ボッシュとシーメンスが先頭に立って展開するコネクテッド家電のプラットフォーム「Home Connect」は、冷蔵庫の中の食材をカメラで撮影して、おすすめのレシピまで提案してくれるアプリ「Kitchen Stories」が2018年にサービスを開始した。フィリップスのスマート照明「Hue」には35種類の新製品が誕生。防水対応で屋外にも置ける照明機器がわが家をスマートにライトアップしてくれる。



ボッシュとシーメンスが展開するスマートホームのプラットフォーム「Home Connect」に今年は数多くのアプリベンダーが乗り入れた（写真左）。

フィリップスのスマート照明「Hue」には一気にバラエティ豊かな新製品が加わる（写真右）。



腕時計のプレミアムブランドがGoogle Wear OSを搭載するスマートウォッチのコレクションを昨年に続いてIFAで盛大に発表した（写真左）。Fitbitはフィットネスだけでなく独自の電子決済機能「Fitbit Pay」対応のスマートバンドでシェア拡大を狙う（写真右）。

ウェアラブル

IFAはGoogleのWear OSを搭載する最新のスマートウォッチが一斉に発表されるイベントとしても認知が定着してきた。2018年はアウトドアギアとしての機能、デザインに磨きをかけたカシオの新製品「WSD-F30」が最も脚光を浴びた新製品だった。ほかにもFOSSIL、MICHAEL KORS、エンポリオ・アルマーニ、ディーゼルといったアパレル系ブランドのスタイリッシュなWear OS搭載スマートウォッチがIFAでお披露目された。アメリカのFitbitも新しいフィットネスバンド「Charge 3」をIFAで発表。独自の電子決済プラットフォーム「Fitbit Pay」をドイツなど欧州18カ国でスタートさせる。

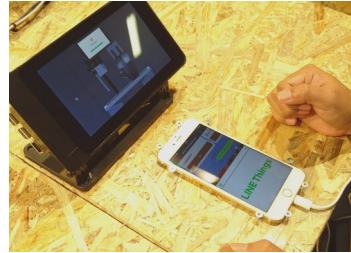
欧州スタートアップの最先端は「IFA NEXT」でつかまえる

欧州をはじめ、世界各国のスタートアップ（ベンチャー企業）やアマゾン、グーグルなど IT の最先端を行く企業が集う特設ホール「IFA NEXT」は、2017年の初開催から第2回目を迎えた。2018年のホール規模は大きく2倍に広がり、連日とても賑わっていた。

IFA NEXT を担当するヴォルフガング・トゥンツェ氏は「出展分野はボーダーレス」であると強調する。確かに IoT やスマートデバイスのプラットフォーム技術から自動運転、プログラミング教育まで幅広い出展社に出会える。

筆者は IFA NEXT の最大の魅力は、コンシューマーエレクトロニクスに深く関わるハードウェア系スタートアップの製品やサービスと数多く出会えるところにあると思っている。昨年に続いて IFA NEXT に19社の出展を引き連れてきた、フランス貿易投資庁ービジネスフランスが世界で展開するキャンペーン「La French Tech」のプロジェクスマネージャーであるマキシム・サバヘック氏は「IFA NEXT はフランスのスタートアップにとって、既に最高のビジネスチャンスの一つ。昨年出展した企業も世界に力強く羽ばたいている」と手応えを語る。

アイデアとひらめきに富んだ画期的な製品、あるいはそれが芽吹く寸前の有望な種を見つけたい方々に、来年こそ IFA NEXT に足を運ぶことを強くおすすめしたい。



2018年のIFA NEXTは日本から参加した企業の出展が大変注目されていた。世界各地域から集まるトレードビジターとの商談も活発に行われ



IFA NEXTを担当するヴォルフガング・トゥンツェ氏



La French Techの参加メンバーを引き連れてきたマキシム・サバヘック氏

IFA NEXTで注目された日本企業の出展

IFA NEXTは日本の企業にとっても、自慢のテクノロジーや商品を世界に向けて発信する絶好の機会だ。2018年にIFA NEXTに日本から出展した企業の代表者の方々に成果をうかがった。

LINE株式会社 開発1センター Technical Consultingチーム/マネージャー LINE IoT Platform/Product Owner 高橋ホセリス 氏

メッセージングアプリの「LINE」を使い、各種IoTデバイスを管理、操作するという開発中のIoTプラットフォーム「LINE Things」を発表。LINEアプリをリモコン代わりにして、コーヒーメーカーに電子レンジ、スマートプラントを操作・管理できるサービスが話題を呼んだ。IFAには初出展ながらも「様々な方々との出会いからコラボレーションの可能性が広がった」と高橋氏が語っていた。

株式会社コルグ 蛭田博幸 氏

コルグは蛍光表示管技術を応用した超低消費電力駆動を特徴とする真空管デバイス「Nutube」を世界に向けてアピールした。IFA NEXTには初出展ながらも、独自に開発したバーチャル・サラウンド技術「Acoustage」を含めて、メーカーやトレードビジターからの引き合いも良い手応えが得られたようだ。IFA NEXTのホール中央の特設ステージでのプレゼンテーションにも、大勢の来場者が関心の目を向けていた。

トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社 ヨーロッパ支社長 浦部雄平 氏

Triple Wは超音波の技術を使った排尿予測デバイスを日米で、そして欧州は英仏独の各国で展開するヘルスケアのスペシャリスト。ヨーロッパ支社長の浦部氏は「IFA NEXTに出展したことによる、メディア・バイヤーの反響はとてもよい」という。新製品「DFree Personal」は日本での販売を開始したばかりだったことから、日本から足を運んだジャーナリストにも注目を浴びていた。

ソースネクスト株式会社 プロデュースGroup 開発Team 木下雄介 氏

74カ国の言語に対応する自動通訳機「ポケットークW」が大ブレイクした。日本と米国では販売が決まっている製品だが、多言語文化圏の欧州でも強烈な引き合いがあったようだ。ブースにはいつ訪れても黒山の人だかりがあった。「迅速なレスポンス、視認性が高まった大型ディスプレイ。操作性の高さにも驚いていただいた」と語る同社の木下氏の表情は自信に満ちていた。

IFA2018：視察/出展された方々のコメント

株式会社ビックカメラ 商品本部 商品企画部 新規開発 張 亜東 氏

2018年はIFAを初めて視察する機会となりましたが、AIアシスタントを搭載する、またはこれと連動できる家電が多く、「スマートホーム」の実用化が大きな前進を遂げた印象を受けました。「IFA NEXT」の視察では数多くのスタートアップ企業様と会話を交わすことにより、商品企画におけるアイデアの重要性を痛感いたしました。来年もまたぜひ視察に足を運びたいと思います。

株式会社蔦屋家電エンタープライズ 取締役 篠崎 友一 氏

2017年に続いて2回目のIFA視察でした。昨年はAmazon AlexaやGoogleアシスタントといったAI搭載スピーカーが全面に打ち出され、まだ「モノ軸」での家電IoT化の提案が多かったように感じましたが、今年は早くもコネクテッド家電の「ライフスタイル提案」が見られたことが印象的でした。IoT家電やホームネットワークはもはや未来の提案ではなく、当たり前前のレベルにまで成長してきていると実感しました。第2回目のIFA NEXTがますますパワーアップしており、ガジェットというよりは睡眠支援などピンポイントで「ライフスタイルの質」を向上させるプロダクトが多数発掘できたことが収穫です。2019年はShift Automotiveも合わせて視察したいと思います。

株式会社タイムマシン e☆イヤホン秋葉原店 店長 松原 了 氏

オーディオ分野を中心に見て回り、IFAに足を運ばないと出会えないブランドや、日本では見たことのなかったスタイリッシュなデザインの製品などを数多く見つけることができました。特に今後力を入れていきたいと考えているワイヤレススピーカーは、多くの収穫が得られたものと思います。エレクトロニクスのテーマパークのように活気あふれるIFAに初めて訪れて、満足できる成果が得られました。当社も今後は欠かさずIFAへ視察に訪れたいと考えています。

一般社団法人 日本電機工業会 IFA視察団代表

日立アプライアンス株式会社 事業戦略統括本部 ブランド・コミュニケーション本部 渉外部 担当部長 森 浩史 氏

私は約12年ぶりにIFAを訪れましたが、白物家電の分野も加わって大きく様変わりしていました。新製品の発表、そして商談の場として活気にあふれていた印象です。AIやIoTの分野にも注目しましたが、音声操作にも対応するスマート家電が欧州でかなり充実していたことを実感して、刺激を受けた次第です。コネクテッド家電のエコシステムの中で、この先にホームアプライアンス製品が果たせる役割を真摯に考えていきたいと感じました。IFAはめまぐるしく変化するエレクトロニクスの最先端に触れられる絶好の機会と言えるのではないのでしょうか。

株式会社カドー 海外営業部 リーダー 細谷 悠太 氏

欧州の先進国、ならびに中東欧の諸国でも喘息やアレルギーの問題が顕在化してきたことによって、“きれいな空気”が注目されています。当社は2年前からIFAに出展して良い反響があり、主力製品であるデザインコンシャスなプレミアムクラスの空気清浄機、および加湿器の取引先様とよいパートナーシップを結ぶことができました。3度の出展経験から、より注目されるブースの作り方も研究してきました。来年もますます良いかたちで来場者の皆様と触れ合える機会をつくりたいと意気込んでいます。

株式会社クリエイティブテクノロジー 代表取締役 辰己 良昭 氏

当社では「あったらいいな」という発想から生まれた独創的な製品を提案しています。静電気力で紙を吸着できるディスプレイボード「ESCLIP」や、靴の嫌なニオイを新開発のラジカルシートで除菌・消臭する「DEODRANT ONE」など、発売中の商品が欧州先進国で取り扱われることになりました。2018年も出展期間中にイケアや米アマゾンなど大きな取引先と有意義な商談の機会が持てました。今後もIFAを起点に当社の画期的な製品を世界に発信していきたいと思います。

IFAキーノートから躍動するエレクトロニクスとITの未来が見えてくる

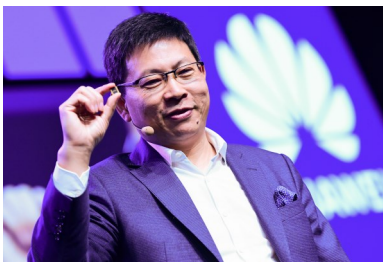
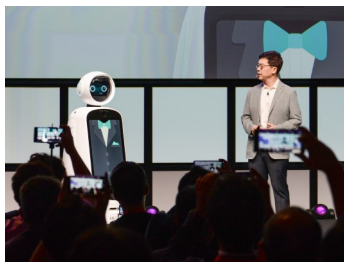
業界のキーパーソンがエレクトロニクスの未来について展望を語る「IFAキーノート」には、2018年も豪華な顔ぶれが揃った。来場者数も50ヶ国以上から2,300人を集めて、4人のスピーカーによるステージが大いに賑わった。

IFAのオープニングキーノートにはLGエレクトロニクスからJo Seong-jin氏とDr. I.P. Park氏の2名が登壇した。同社は独自のAIプラットフォーム「ThinQ（シンキュー）」を推進しているが、今後も5Gやエッジコンピューティングの技術と融合したシームレスなコネクテッド家電によるエコシステムを広げていくことを宣言した。

ファーウェイのRichard Yu氏は2年連続でIFAキーノートに登壇。今年はAI専用エンジンを内蔵する最新世代のモバイルSoC「Kirin 980」を発表した。スマートフォンとAIはあらゆる面から結びつきを深めつつある。ファーウェイはその流れを先頭に立って引っ張るブランドの一つだ。そのファーウェイがスマホを軸として、スマートホームやIoTの分野にも裾野を広げながら展開するスマート戦略の全体図が見渡せるイベントであることもIFAならではの魅力。同社初の4G LTE対応スマートスピーカー「AI Cube」や自社ブランドのIoTデバイスもIFAで発表されて話題を呼んだ。

マイクロソフトから登壇したNick Parker氏は、AIやIoTのビジネスに向けてマイクロソフトが注力する戦略について語った。キーノートの壇上ではWindows OSのメジャーアップデートとなる「Windows 10 October 2018 Update」の名称が発表されたことにスポットが当たった。IFA2018ではAcerやASUS、レノボなどWindows搭載PCの新製品も数多く発表されている。

アマゾンのDaniel Rausch氏は、担当するAmazon AlexaのAIプラットフォームの最前線を語った。Rausch氏はサービスインからわずか4年で、世界中に数千万台のAlexa対応デバイスが毎日ユーザーのスマートライフを支えているとしながら、これからも外部デベロッパーと協調しながら多彩なデバイスをAlexaと結びつけていきたいと述べた。IFAにはAmazon Alexaのブースが出展され、多彩な対応機器を見渡すこともできた。



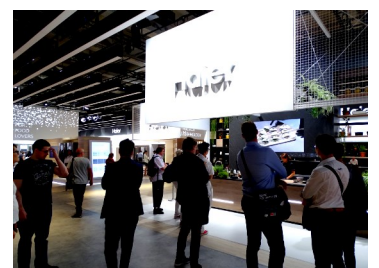
IFA2018 Keynotes 参加ブランド LGエレクトロニクス／ファーウェイ／マイクロソフト／アマゾン

世界各国・メジャーブランドの現在地

IFAには毎年、世界を代表するエレクトロニクスのブランドがブースを構えて、最先端のテクノロジーを競い合うように見せている。韓国のサムスン、LGエレクトロニクスは欧州でも人気のブランドだが、2018年は特にスマートホーム戦略を前面に打ち出すような展示が印象に残った。ドイツのボッシュ、シーメンスもプレミアム価格帯のホームアプライアンスがほぼ“スマート化”を完了している。次の競争の舞台はもはや「AIと音声ユーザーインターフェースの取り込み」に移りつつあるようだ。もしかすると数年以内に欧州では、家電を声で操作することが“当たり前”になっているかもしれない。

欧州の家電ブランドとして異彩を放つフィリップスは睡眠や育児のサポート、デンタルケアといったパーソナルなニーズに応えるヘルスケア家電とクラウドサービスの開発に軸足を置いて、独自性の豊かな商品群を揃えつつある。

そして2019年には中国でも最も積極的にスマート家電に取り組むブランドであるハイアールが、本格的な欧州市場進出を計画していることにも注目したい。



サムスはSmartThingsクラウドサービスと、独自のAIアシスタント「Bixby（ビクスビー）」による連携操作に対応するスマート家電が多数商品化されている（写真左）。中国のハイアールは2019年に欧州本格上陸を予定（写真右）。

IFA+SUMMITが見つめる先は5年先の“エレクトロニクスの未来”

2013年の初開催から5年の節目を迎えたIFA+SUMMITは、IFAと併催される未来志向のカンファレンス・イベントとしてますます認知を広げている。2018年には9月3日・4日の2日間に渡って開催され、期間中に550名以上の参加者を集めた。

IFAがエレクトロニクスの最新「商品」を見て、触って体験できるイベントであるならば、IFA+SUMMITのテーマは少し先の未来にはっきりと姿を現すであろうイノベティブな最先端テクノロジーについて思いを巡らせることである。今年はAIや音声UIの“次にくるトレンド”として期待されている、いくつかのユーザーインターフェースにスポットライトが

一例を挙げるなら米ドルビー・ラボラトリーズの主席サイエンティストであるピー・カラム氏が研究の対象とする「脳波」の解析技術を活用したインターフェースだ。脳波と心拍/発汗を測定する生体センサーから得た情報を元に、映画の視聴者が最も心地よい没入感が得られるようなコンテンツ制作をドルビーは現在、カラム氏の指揮によって研究している。

BMWグループのイエダン・チャン氏による「人の触感の拡張技術」をテーマにした次世代のインターフェース研究の講義も実に興味深かった。身に着けた触感センサーのフィードバックを頼りに、GCの世界に存在する物体に手で触れたり、歩きまわる感覚を再現するという画期的な技術。AR/VR系のエンターテインメントの発展に、あるいは福祉・介護の領域にも大きな可能性が見えてくるかもしれない。

IFA+SUMMITの期間中は、両日のイベント終了後にステージの登壇者と親交を深められるカジュアルなパーティーが催される。オンラインには過去のステージの様子を収録した動画も公開されているので、ぜひ参照しながら来年の参加を検討してみたいだろうか。



IFA+SUMMITは「5年後のエレクトロニクス」の未来像をシェアするイベント。ドルビーやBMWの次世代UI研究の成果が報告された。

コネクテッドカーがテーマのイベント～Shift Automotive始動

2018年にはコネクテッドカーのイノベーションをテーマにしたイベント「Shift Automotive」がスタートを切った。今後は秋のIFAと、毎年春にスイスのジュネーブで開催されるモーターショー「Salon International de l'Auto」と交互に、1年に2回ずつのペースで行われることになる。

第1回目のShift Automotiveはメッセ・ベルリン会場「Hall 26」のカンファレンスルームを使って、BMWデザインワークスのJohn Schoenbeck氏によるオープニングキーノートスピーチを皮切りに9月4日・5日の2日間に渡って数多くのカンファレンスが開催された。自動車に関連するプロダクトデザイン、AIや音声UIの技術にも大勢の来場者が関心を寄せた。これからのIFAはコンシューマーエレクトロニクスとクルマをつなぐ、世界でも他に類を見ないイベントに発展を遂げていくに違いない。



2日間に開催されたキーノートスピーチやパネルディスカッションに多くの来場者が足を運んだ。

欧州最大の調達市場 IFA Global Markets

IFA Global Market はベルリンの中心にある「Station-Berlin」を会場に毎年開かれるOEM/ODM系の出展社が集うBtoB向けの調達市場展示会だ。

2018年には会場の展示エリアがさらに広がり、エレクトロニクスに関わる様々なカテゴリーの要素技術に部品、ソリューションなどが集まった。筆者も会場を歩いてみたが、特にいま話題の左右独立型のワイヤレスイヤホンに関するソリューションが数え切れないほど多く並んでいたことに驚いた。2018年はイベント初日の9月3日にプレイイベント「ShowStoppers」も初めて開催された。



インタビュー

出展社・来場者と一緒にエレクトロニクスを革新する

2018年は過去にないほど、最高に内容の濃いIFAだったと自負しています。AIや音声UIなどエレクトロニクス周辺の熱い話題を、ライフスタイルとの関連性を見せながらタイムリーに発信できたことが成功を収めた大きな理由だと思っています。

もはやある展示会や企業が単独で大きなイノベーションを起こすことは難しい時代です。エレクトロニクス業界と一つになって、未来に向かって突き進む熱気がIFAのムードをととても明るくしています。このことがキーノートやIFA+SUMMITのスピーカーのラインナップ、トレードビジターの国際化を後押ししているのだと思います。

IFA2018では、オートモーティブをテーマにしたイベント「Shift Automotive」が記念すべき一歩を踏み出しました。このイベントは最先端のデモカーや自動車に関連するテクノロジーをお披露目することが目的ではありません。私たちのコネクテッドリビングの視点からオートモーティブをとらえて、ユーザーに新しい価値と体験を提案することに重きを置いています。業界全体に新たなうねりを生み出し、活気をもたらしたいと考えています。

自動運転の技術が進化すれば、コンシューマーが期待するスマートなモビリティライフの将来もより具体的なものとして描けるようになるはずです。エレクトロニクスとオートモーティブのイノベーションをつなぐダイナミズムをぜひ、来年以降もジュネーブとベルリンを舞台に体験して下さい。

日本からIFAに出展される皆様の展示には、私自身もいつも大きなインスピレーションを受けています。コンシューマーの期待と真摯に向き合う姿勢から生まれるイノベーションには人々を惹きつける強い力があります。その成功は大勢の来場者で賑わうブースの熱気が物語っています。日本から発信されるテクノロジーやトレンドが、今後どこへ向かうのか、いま世界が注目しています。ぜひ2019年もIFAにお越しただいて、その期待の高さを肌で感じてほしいと思います。



メッセ・ベルリン社 IFAグローバル統括本部長
イエンズ・ハイテッカー氏

ジャーナリスト・山本敦が予想する「IFA2019」の見どころ

2018年のIFAでは、AIや音声を使ったユーザーインターフェースを上手に組み込んだ様々な商品を各社のブースで目にした。AIを活用すると何が便利になるのか。筆者も正直に言ってまだ具体的なイメージが浮かんでこないところがある。でもひょっとすると数年後には誰もが音声を使って家電を操作するようになり、AIは私たちが豊かな生活を実現するために欠かせない技術の一つになるのではという期待感も、会期の全日に渡ってIFAの会場を歩き回った後に、自分の中で日増しに膨らんできた。

AIや有機的なユーザーインターフェースの技術は、おそらくコネクテッド家電と結びつくことで本当の価値が生まれてくるだろう。つまり、単体ではなく複数の製品が連携しながらユーザーにとって魅力ある体験をつくり出していくという視点に立つことで初めて、未来のエレクトロニクスの姿が見えてくる。そのビジョンを最も明快に体験させてくれる、世界で唯一のイベントがIFAなのだ。

2019年もIFAの見どころは「コネクテッド家電」であることに変わりはないだろう。ただし、その時には「5G」の商用化、あるいはAIやロボティクスに関連する技術の成熟、さらにはオートモーティブの周辺も自動運転を取り巻くホットなトピックスで賑わっているはずだ。それぞれの技術の間にある壁、商品カテゴリという枠組みを取り払って、私たちの未来の豊かな暮らしを具体的にイメージできる6日間になることは間違いない。皆様もぜひ、できる限り長くIFAの会場に滞在して、多くの発見を得てほしいと思う。



1933年 IFAオープニングにて/アインシュタイン氏

Bundesarchiv - Bild 101-0206
Foto: o. Ang. / August 1933

取材・文 山本 敦

IFAを15年以上取材してきた、オーディオ・ビジュアルからスマート家電まで幅広くカバーするフリーランスジャーナリスト。